



現代の魔術、デジタル写真

市史編さん事業の考古部会で文化財の写真撮影を担当する飯島です。文化財の撮影をしているとデジタル写真は、便利なようで面倒だな、ちょっと不安だな、と思うことがあります。記録や保存・活用を考えた場合、どうしても撮影後のひと手間が必要になるからです。PCを開いて最良の画像を選択し、データの情報(名称や記録方法、データ量等)を入れ、今後の活用(HPでの公開、パンフの作成、ポスター制作等…)に備えなくてはなりません。データ量によって用途が制限されることを考慮しておきます。併せて、誰にでも使えるように、どこにどのように整理しておくかも重要です。これらは非常に面倒で手間のかかる作業です。

家庭でも子どもの入学式や運動会で撮影したデータはどこに保管されているのか、という問題が起こります。ある学校では記念誌を刊行するにあたり写真を収集したところ、古い写真は存在しても、ここ10年間の写真が見当たらないということがあったそうです。わが家でも上の子のアルバム数(フィルム撮影)に比べ、下の子のアルバム数(デジタル撮影が多い)は少ないです。だからと言って、今更データを開け、チェックし、プリントするなどとても…。その上、際限なくシャッターを切っているからデータ量(撮影枚数)は膨大で、撮影内容も忘れていた。整理用のハー



飯島 一生氏
考古部会協力員
(茨城県埋蔵文化財センター)

ドディスクは壊れないのか?そもそも今の記録媒体(DVD、SDカード等)や記録方法(JPEG、ROW)はいつまで生存するのだろうか。VHSや8ミリビデオデッキと同様にメーカーが生産停止したら、新しいものに書き換える?それは大変だ。

しかし、デジタル写真は安価で綺麗、データの共有が速くて、とても便利です。市史編さん事業においても、デジタル写真の良さを生かし、市民の皆様が見やすく、少しでも地域の歴史や文化財に関心を寄せていただけるような写真を掲載できるよう頑張りたいと思います。

※i Cloudがあるとはいえ、先日スマホが固まった際に、修理店のおねえさんに「リセットしていいですか?」と言われた時の恐怖は、忘れません。



▲ライティングによる見え方の違い(左:縄文土器 右:硬玉製大珠)

■問い合わせ■

文化スポーツ課

文化・スポーツグループ ☎52-1111 (内線344)